



4月号をお届けします。執筆時点では、一雨ごとに暖かくなってきており、近所の公園では、桜の花が咲き始めました。東京の桜の開花については、3月15日から18日との予想が出ていましたが、それより早い3月14日に開花の宣言がありました。統計開始以来、最も早い開花となった昨年の3月14日と並ぶ早さです。

新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が1月8日から2月7日までの予定で10都府県に出され、1月13日には栃木県が追加されました。その後、栃木県は2月8日までで解除され、他は1か月間延長されましたが、愛知、岐阜、大阪、京都、兵庫、福岡の6府県については2月28日で解除されました。3月7日で解除の予定であった東京、神奈川、千葉、埼玉の1都3県については、3月21日まで再延長となりました。その後も、感染者数が下げ止まりの傾向であり、予断を許さない状況です。政府や各自治体は、花見や謝恩会、歓送迎会の自粛を呼びかけており、年末年始に続いての需要期であるにもかかわらず、酒類業にとっては厳しい環境が続いています。

2月17日からコロナ対策の切り札として期待されているワクチンの接種が始まりました。今回のワクチンはファイザー社製でmRNAワクチンという聞きなれないタイプですので、少し調べてみました。コロナワクチンもインフルエンザワクチンと同様に、ウイルスの表面のタンパク質に対する免疫反応を誘導することで感染を防御します。インフルエンザワクチンの場合、ウイルスを培養し、それを不活性化させたものです。このワクチンには、ウイルスの表面タンパク質自体が含まれており、それが免疫反応を誘導します。一方、mRNAワクチンは、ウイルス表面タンパク質の設計図に相当し、人間の細胞の中でコロナウイルスの表面タンパク質を作り出します。ワクチンのmRNAは、細胞の表面と同様の脂質ナノ粒子で覆われていて、細胞の中に取り込まれやすくなっています。mRNAワクチンは免疫誘導が強いのですが、mRNAは分解されやすいことが弱点で、超低温で保管する必要があります。以前、酵母の実験でmRNAを取り扱った時には、超低温フリーザーを使用したことを思い出しました。mRNAワクチンの基本技術はすでに確立されており、設計図を変えれば様々なウイルスに対応できるとのことで、そのために短期間でワクチン開発が可能になったようです。ワクチン接種が円滑に進み、以前の生活が回復することを願ってやみません。

醸造協会は、例年、春から各種のセミナーを開催していますが、そのトップを切って、第36回ワインセミナーが2月1日から3月31日の予定でオンライン開催されました。これは、昨年8月に予定していた新型コロナウイルス感染症の影響で開催が中止となったプログラムの一部を、オンライン動画配信でお届けしたものです。第25回杜氏セミナーにつきましても、講演はオンラインとし、動画配信が3月1日から18日まで行われました。きき酒については、感染防止を図るために、写真のように距離を置いて着席した審査員に、スタッフが試料酒を注いでいく方法で行いました。しかしながら、3月19日に予定されていた個別相談・きき酒会につきましても、緊急事態宣言の延長のため中止とさせていただきます。参加申し込みをされていた方には大変申し訳ありませんが、ご理解賜りますようお願い申し上げます。また、今年度の、清酒技術セミナー、清酒経営セミナー、焼酎講演会、醸造調味食品セミナーにつきましても、感染拡大防止を図りつつ多くの皆様にご参加いただけるように、オンライン動画配信での開催を計画しております。女性セミナーと実践キキ酒セミナーにつきましても、対面での実施を基本と考えていますので、本年度もやむを得ず中止とさせていただくこととなりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

